【概要版】

情報モラルの指導に関する研究

－インターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成－

長期研修Ⅰ研修員　丸山千恵美　中里　則夫

Ⅰ　研究の背景と目的

【　情報社会の急速な進展　】

光の部分

* 様々な情報が簡単に手に入る
* ネットショッピングで簡単に買い物ができる
* 情報の表現や発信が個人で簡単にできる
* 便利で快適な生活　　など

影の部分

* あふれる有害情報
* ネットショッピングによるトラブルなど
* 掲示板への誹謗中傷
* プロフへの個人情報の書き込み
* 児童生徒のまわりにも事件やトラブルが起きている　　など

- 進展する情報社会に積極的に参画するために
- インターネットを介したトラブルの被害者にも加害者にもならないために

情報モラル指導の必要性

児童生徒のインターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成を目指して、情報社会の現状、協力校の児童生徒の実態、発達段階にあわせた教材を作成し、授業で活用した取組を提案する。

Ⅱ　協力校における実態調査

- 調査の概要

県の「群馬県児童生徒の携帯電話・インターネット実態調査」を基に、協力校の全児童生徒に、携帯電話やコンピュータによるインターネット利用についての調査を実施した。また、協力校の教職員にも情報モラルの指導について調査を実施した。

- 調査の結果１

- 協力校Ａ（小学５年生）も、協力校Ｂ（中学２年生）も県の調査（小学校17.1%、中学校47.7%）と比べ自分専用の携帯電話の所有率が高い（図１）。
- 協力校Ａでは、多くの児童がインターネットに接続できる機器を所有している（図１・２）。

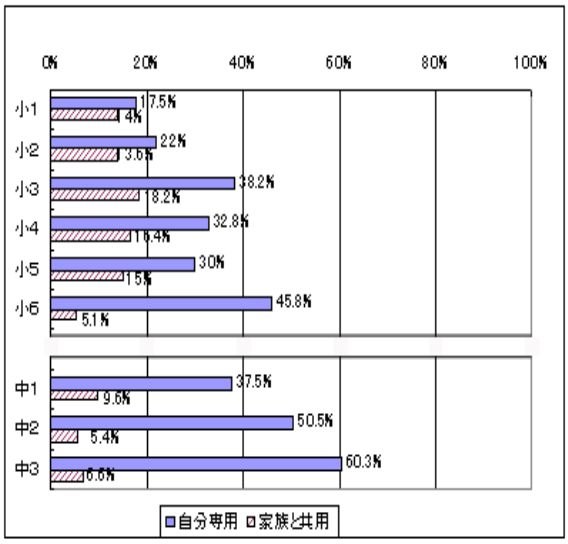


図１　協力校における児童生徒の携帯電話の所有率（%）

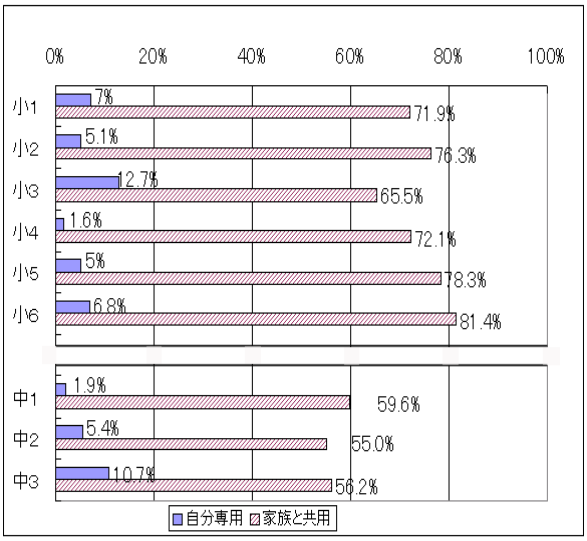


図２　協力校における児童生徒のコンピュータの所有率（%）

調査の結果２

- 協力校Ａ、Ｂ共に、高学年になるにつれ利用時間が長くなる。１日平均３時間以上インターネットを利用している児童生徒のほとんどが自分専用の携帯電話を所有していた（図３）。

調査の結果３

- 協力校Ａ、Ｂの教職員共に、「専門的な言葉が分からない」（小学校53.8%、中学校38.5%）「事件やトラブルに対応した教材がない」（小学校46.2%、中学校30.8%）という回答が多かった。

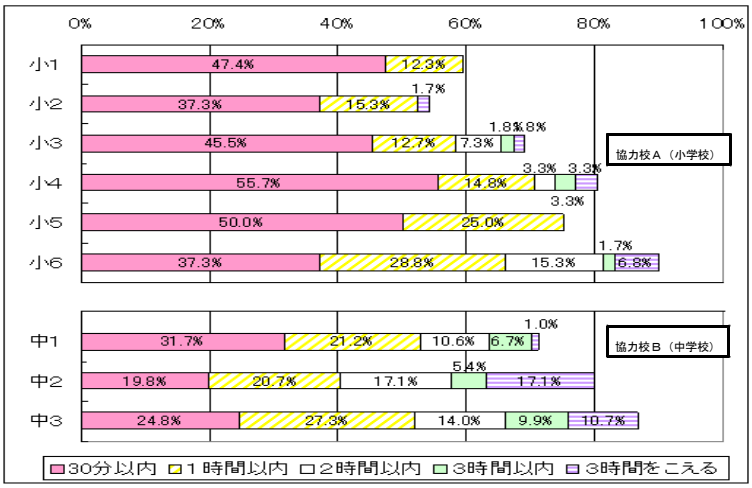


図３　携帯電話・インターネット利用時間別人数割合

児童生徒を取り巻く情報社会の現状と協力校における調査の結果から

- 情報社会の光と影の両面を理解させ、学んだ情報モラルが日常生活で継続して生かせるように指導を行う必要がある。
- すべての児童生徒に対して、小学校の早い時期から、発達段階に合わせた情報モラルの指導を行っていく必要がある。
- 変化の激しい情報社会に対応した教材を開発し、指導に活用できるようにする。

Ⅲ　実践の内容

協力校Ａにおける実践

１　基本的な考え方

●「情報社会の光と影」から学ぶ情報モラル

- 低学年…日常のモラルと共に、コンピュータの便利さと気を付ける点を学ぶ
- 中学年…主に、情報の収集における光と影について学ぶ
- 高学年…主に、情報の発信における光と影について学ぶ

アニメーション教材

- 小学生の身の回りにも起こりやすいトラブル
- 児童の実態から、主にコンピュータを用いた場面
  （一部は、携帯電話・ゲーム機を用いた教材も作成）

☆アニメーション教材の内容

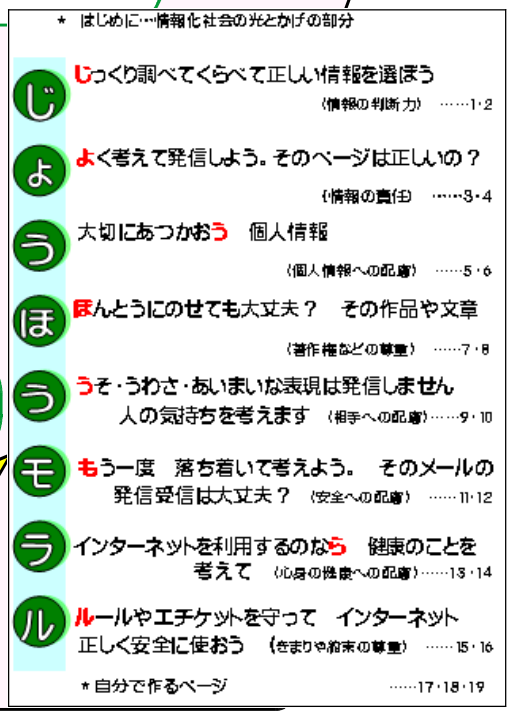
「そのメール、開いて大丈夫？」「ネットゲーム」
「えっ、私の写真が」「おもしろ半分な気持ちで」　など

●継続を図った情報モラルの指導

- 授業で学んだ知識が持続し、日常生活に生かすために

「情報モラルハンドブック小学校版」

- 授業で関連する項目のページを配付し、確認の場面で活用した
- まとめの段階で１冊に綴じて持たせ、活用した
- アニメーション教材と対応した内容を入れた


＊　はじめに…情報化社会の光とかげの部分

じ　じっくり調べてくらべて正しい情報を選ぼう　（情報の判断力）……1・2

よ　よく考えて発信しよう。そのページは正しいの？　（情報の責任）……3・4

う　大切にあつかおう　個人情報　（個人情報への配慮）……5・6

ほ　ほんとうにのせても大丈夫？　その作品や文章　（著作権などの尊重）……7・8

う　うそ・うわさ・あいまいな表現は発信しません　人の気持ちを考えます　（相手への配慮）……9・10

モ　もう一度　落ち着いて考えよう。　そのメールの発信受信は大丈夫？　（安全への配慮）……11・12

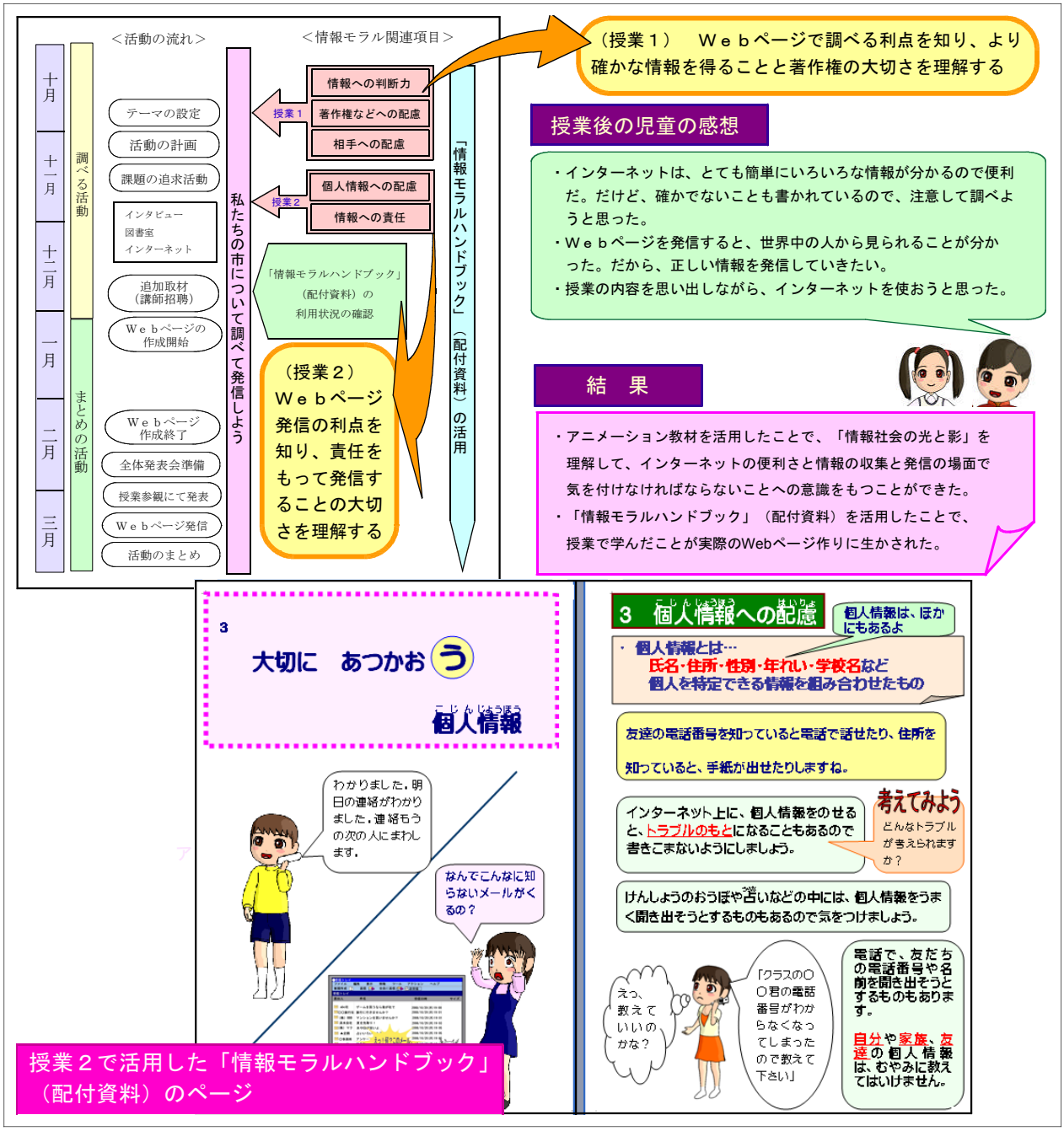
ラ　インターネットを利用するのなら　健康のことを考えて　（心身の健康への配慮）……13・14

ル　ルールやエチケットを守って　インターネット正しく安全に使おう　（きまりや約束の尊重）……15・16

＊自分で作るページ　……17・18・19

２　実践授業（協力校Ａ　小学校５年生）

総合的な学習の時間「私たちの市について調べて発信しよう」の学習の中で、情報モラルの授業を２時間実施



授業２で活用した「情報モラルハンドブック」（配付資料）のページ

協力校Ｂにおける実践

１　基本的な考え方

中学生になると、自立心が強くなり、自分で考え、判断し、納得できるような学習を行うことが大切である。また、授業で学習したことを建前として捉え、日常生活と結びつけようとしない場合が多いという実態もある。

アニメーション教材で

情報モラルハンドブックで

●「情報社会の**光と影**」から**考える**情報モラル

・インターネット利用の具体的な場面を設定し、その中で、情報社会の光と影の部分について示し、インターネットを正しく安全に利用するための注意点について自分たちで気付かせていく。

・気付いたことを基に、インターネットを正しく安全に利用するための心構えを考えさせ、インターネットを正しく安全に利用するための自分なりの考え方を意識させる。

情報モラルハンドブックで

●**継続**を図った情報モラルの指導

・授業だけでなく、日常生活の中で情報モラルを意識できるように、前の授業で学習した内容を基に、さらに詳しく調べる課題を設定し、次の授業で発表する。

・学校行事などと関連させ、様々な場面と結びつけ日常生活の中で情報モラルを意識させる。

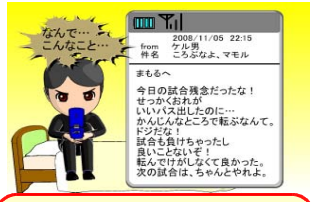
2　実践授業（協力校Ｂ　中学校２年生）

(1)　アニメーション教材とハンドブックを活用した授業実践における工夫

①アニメーションの活用
・よさを踏まえメールを利用する上での注意点を話し合う。

②ハンドブックの活用１
・メールを正しく安全に利用するための自分なりの心構えを記入する。

③日常生活の中で情報モラルを意識させる課題
・前の授業で学習した内容を基に、さらに詳しく調べ、次の授業で発表する。

	主な学習活動	教材活用場面
授業１	光 電子メールのよさについて話し合う 影 アニメーション教材「メールのやりとり」を見て、どうしてトラブルになってしまったか話し合う。	☆アニメーション教材「メールのやりとり」〔動画：1分55秒〕  注意点に気付く
	○ハンドブックで、メールについて大切なところを確認し、今後、自分では、どのような心構えで利用していくか、ハンドブックに記入する。	☆ハンドブック 〔P13電子メールの送信・受信について〕 〔P14メールを発信する時の心構え〕 心構えを考える
	○次回までの課題を確認する。 「今日やったことを基にさらに調べてみたいことを調べてくる。」	継続を図る

④ハンドブックの活用２
・日付を入れ自分なりの心構えを追加する。

メール発信時の心構え
・相手に失礼がないようにする。
・相手の気持ちを考える
・11/19機械でなく、人と接していることを忘れない
・11/19チェーンメールを送らない

授業２	○調べてきた宿題の発表をする。 ○自分で調べたことや友達の発表を聞いて心構えや修正を書く。	☆ハンドブック 〔P14メールを発信する時の心構えのところに、自分で追加した内容を日付を入れて記入させる〕
	光 掲示板のよさについて話し合う	光の部分を確認 ☆実物投影機で掲示板の良い例を見せる（ガン患者を励ます掲示板の例）

(2)　学校行事と結びつけたハンドブックの活用

⑤ハンドブックの活用３
・学校行事で活用する。

〈人権週間に生徒が作った情報モラル標語〉
作品1「インターネット、ルールを守って楽しく活用」（参考にしたハンドブックの項目、電子掲示板の利用）
作品2「守ろうよ、侵害しない著作権！」（参考にしたハンドブックの項目、著作権の尊重）
作品3「書き込まない！悪口、批判、個人情報」（参考にしたハンドブックの項目、ﾈｯﾄﾜｰｸ上のｴﾁｹｯﾄ）

(3)　結果

・インターネット利用の良い点と注意する点に気付かせ、それを基に心構えを書かせることで、生徒は自分が実際に利用する場面を意識しながら、正しく安全な使い方とはどういうことかについて自分の考えをもつようになり、情報モラルについての理解を深めることにつながった。
・学校行事での標語作りや授業後の課題を設定するなど継続を図った指導を行うことで、生徒は自分で気になることを調べたり考えたりして普段の生活の中でも情報モラルに対する意識をこれまでよりもてるようになった。

Ⅳ　研究のまとめ

成果

○　**「情報社会の光と影」を示すことにより**
情報社会の便利で良い点を、より有効に活用していくためには、どんな点に気を付ければよいかを児童生徒自身が考え、気付かせることによって情報モラルへの理解が深まることが分かった。

○　**継続を図った情報モラルの指導を行うことで**
児童生徒の情報モラルに対する意識が持続され、インターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成に有効であることが分かった。

○　**情報社会の現状を踏まえ**
学校の実態、児童生徒の発達段階に応じた情報モラルの取組が有効であることが分かった。

課題

○　本研究で作成したアニメーション教材や「情報モラルハンドブック」などを用いた情報モラルの指導計画を立案し、有効に活用する。

○　日々進化する情報社会に対応した教材や、児童生徒自身が疑似体験できる教材を作成し、情報モラルの指導教材の充実を図る。

問い合わせ先　群馬県総合教育センター
担当係：教育情報推進係　０２７０－２６－９２１５（直通）